
子猫物語

ハチ公線

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

子猫物語

【Nコード】

N2076E

【作者名】

八千公線

【あらすじ】

それは私がいたって普通の大通りで見つけたダンボールが発端だった。

「にゃー……」

か弱い声で、しかし生きている証拠を叫んでいる声が聞こえたのだ。実はここ二日ぐらい見かけていたのだが、そのときは何も聞こえなかった。

私は興味本位でそのダンボールの蓋を開けた。

「にゃー……」

その箱は漫画に出てくる一匹だけ入っている捨て猫ではなかった。そのときはまだ雨だったから逃げなくてもよかったのだろう。

もし雨ではなかったら……【腐臭】が漂っていたかもしれない。

そのダンボールの中身は地獄を凝縮したみたいだった。肉塊と成り果てた兄弟の中に埋もれているのだろうか？ 姿はなくてもその声は聞こえた。

とにかく酷すぎる。私は鼻のところで漂って来た腐臭をやや咳き込みながら、その肉塊をかき混ぜた。

グチュと崩れる音がする。そして手の甲に少しだけ当たる、硬質の物。

「う……う……」

涙が溢れてきた。命がこんなに粗末に扱われるなんてそのときの私は思ってもなかったからだ。そして、わずかに触れる温かいもの。それを引き出すと、ガリガリに細くなった子猫が一匹手に乗っていた。長い間放置されたような猫だ。それくらい細くなる。

子猫の身体には、兄弟の、肉から赤黒い血までこびり付いていた。雨は降り続ける。子猫の体温が下がっていく。私はスポーツバツクの中にあつたタオルで子猫を包んだ。そしてダンボールの周りを見た。

赤黒い血が、血の海みたいにひろがっていた。そしてその血の川は排水溝に飲み込まれていた。

家に持ち帰ってさっそく私は牛乳をコップに注ぎ、小指に付け子猫に舐めさせた。

すると、子猫はほんの少しだけ飲んだのだ。そして、また御代わりと言っているのだろうか？ にゃーとまた言う。私はうれしくてまた、子猫に牛乳をあげたのだった。

しかし、それは決まっている運命なのかもしれない。

突然子猫の体調が急変した。私は大急ぎで動物病院に行った。そして医師から言われたのは、

「もう駄目です。何もすることができません」

あの子猫はがんばって生きていたと思います。ほんの一秒でもいいので一緒にいてやってください。多分あの子の本望でしょう。

いつの間にか私は家に着いていた。

母がお帰りという。私は何もいわずに自分の部屋に閉じこもった。一生懸命に牛乳を与え、少しでも生き延びるようになって……がんばって必死に看病をした。

医師に命の期限を宣告されてから、十五分、しらない間に鼻血が出ていた。ひゅうひゅうと音が聞こえる。とてもか弱い命の燃え方。

まだ私はその子猫の名前を決めてなかった。最後までいい名誉あるものを残してやりたい。

そして、子猫は目を開けた。その目はブラウンの色をした瞳だった。

無意識なのか、ずっと私を見つめている。

ママ……ママ……苦しいよ。

そう訴えているような気分だ。それを見ていると涙が溢れてくる。辛い。しかし私は少しでもその子猫の最後を見ておきたかった。

ひゅうひゅうとは無視のような呼吸音。

そして……その呼吸音はぷつりと消えてしまった。

目を開けたまま……突然のように……

私はその場で泣き喚いた。目の前で消えていった命の蠟燭が、途中で火が消えてしまったことに……

自分の無力感が自分の心を押しつぶしてしまった。

その火に私は子猫を庭に埋めた。今も私の庭には子猫が埋まっている。今は、木となって、元気に花を咲かしている。

そしてまた子猫を拾った道を通るのだ。そして、子猫がもし見つかったときには……一生懸命に育てて生きたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2076e/>

子猫物語

2011年1月3日07時30分発行